

リベルタ新聞

リベルタの梅

梅雨の時期に入り、じめじめと蒸し暑い時期になりました。天気が悪い日には歩行や外気浴にも行けず、気持ちもスッキリしませんよね。そんな中、リベルタでは利用者様に塗って頂いた塗り絵を集めて1つの作品にしたり、レクにて夏物飾りを製作したりと利用者様方の作品で彩られ、華やかな気分



2018年
7月1日(日)
リベルタ新聞社
富士市厚原372番地1
ホームページ
<http://www.fujic3.com>
TEL:0545-72-3833

梅雨のひと時の晴れ間も見逃すことなく、リベルタの畑に芋の苗を植えました。今年の秋もまた待ち通しくなりますね。

6月14日にはボランティアの方が見え、踊りや歌を披露して下さい



定期連載
俊さんのコラム

「昭和十二年苦難の始まり」

昭和十二年、私は六歳でした。父親が、私を朝早く起こして、我が家の屋上へと連れて来ました。そして、「空をよく見て居る。」と言ったのです。指差す方向をながめておりました。すると、はるかかなたから飛んできた飛行機が一機あり、翼に朝日のマークが描かれていました。父は「この飛行機が世界一周する飛行機だ。」と、父は喜んでおりました。

当時の世界情勢は、日本が大陸に勢力をのばし日本の人口も一億人になろうとしていた時代で、国家発場の時でありました。

丁度その頃、国産の二人乗りの飛行機で、世界一周に出発したのが三菱航空機が製造した、この朝日新聞社の「神風」号でした。「神風」号は、東京からロンドンへ、東南アジア各国を給油しながら飛行し東南アジア諸国から歓迎されました。

日本の国威高揚にもなり、ロンドンに到着しても、日本の技術の高さを、ヨーロッパの国々に印象を高めたのです。その後、日本の飛行機産業は急速に発展して行き、「零戦」「隼」などの名機もまたこぞ展覧していききました。

また、軍需産業



菱 神風号

